

高齢社会における持続可能な地域農業を探究

生物資源科・高橋 厳准教授



実践的な調査研究が大切と話高橋准教授

地域農業にとって、過渡期であればいいかを考慮や高齢化は深刻な問題。えながら調査研究を進める。明日の農業を担う若い後継者が不足し、農地が荒廃することなどが懸念されている。高橋准教授は、そうした地域農業が抱える様々な問題に取り組んでいる。

「平たくいえば、農村の活性化。農村が元気になるには、

研究では「食」の視点から分析し力を入れていく。その背景には、食料自給率が約4割で輸入食料に依存しなければならぬ日本の実態がある。

「食」を作る側と食べる側の関係はどうあるべきか。「安全・安心の食」を提供するにはどうすべきか。そのために地域組織（農業協同組合など）や政策はどのように取り組むべきか、といった幅広い問題に携わってきた。

見直される農村の営み

農村の衰退が危惧される。農村体験や、ふるさとまつり、伝統芸能などの文化活動、そば打ち、わら細工など、失われつつあった農村の営みが、あらためて見直されているのだという。

「地域社会や経済を活性化するには、農村本来の魅力を生かし、互いに交流し助け合うことが重要になります。その意味で、グリーン・ツーリズムは都市と農村の人的交流を育み、農村高齢者の生きがいづくりにもつながっている」と話す。

「が、克服しなければならぬ課題も多い。たとえば法的問題。農家を宿にするにしても、旅館にしている。田植え、稲刈り、乳搾りなどの農業法などがからんでくる。行政のサポートや法律

「元気な農村」のモデルづくり

キーワードは「交流」、都市と農村をつなぐグリーン・ツーリズム



福島県喜多方市で地域農業とグリーン・ツーリズムの実態調査を実施（森姫農園で）

元気な高齢者に注目

高橋准教授の研究で特筆されるのは、高齢化の進む地域農業の担い手として、「元気な高齢者」に注目していることである。その一つが離職就農した「定年帰農者」だ。特に、これからの中心を占める「団塊の世代」は、数多く、かけがえのない人的資源と位置づけられるとし、「持続可能な地域農業を実現するために、高齢者を軽視するのは、高橋准教授の大きな見直しである」と語る。

「いま、「交流」に力を注いでいる地域は、農業が活性化しつつあり、一部では若い力も育ちつつある。ただし、それを持続可能にするためには、一国の施策の大幅な見直し、重要になる」と語り、「今、最近の学生は「社会後も、人との関係を直視して、高齢社会のモラルとなる交流を地域農業のなかに組み込んでいきたい」と抱負を語る。ゼミ活動では、フ

ではなく、より光を当ててほしい」と言う。

高齢者を語るキーワードは「交流」だ。そのためには、農村側も従来の閉鎖性を払拭して、風通しを良くしながら、ヨコのつながりを強化すべきだ、と論じる。ヨコのつながりが失われた結果の悲劇は何も農村だけではない。むしろ、高齢化が進む都市住民にとって、心と心が響き合うような農村の交流が手本になるのではないかと話す。

「重要になる」と語り、「今、最近の学生は「社会後も、人との関係を直視して、高齢社会のモラルとなる交流を地域農業のなかに組み込んでいきたい」と抱負を語る。ゼミ活動では、フ

高橋 厳（たかはし・ジネス学科准教授）。

いわお）昭和59年農獣医学部卒業。61年農学博士。編集委員、日本協同組研究科博士前期課程修了。合学会、日本農業経済学社団法人農協共済総合

プロフィール 会などに所属。学生時

研究科主任研究員などを経て、平成17年生物資源科准教授に就任。現在もビッグバ科助教（現・食品ビ

薬物の有効かつ安全な投与法を解明

薬・松本 宣明教授

生体に投与した薬物が、体内でどのように吸収・分布・代謝・排泄されるかを明らかにする「薬物動態学（PK）」、薬物が生体に与える影響などを調べる「薬力学（PD）」をPK/PDについて、松本教授はPKとPDを組み合わせて解析を行うことで、薬物の有効かつ安全な投与法を解明する研究に取り組んでいる。

教授によると、「日本においてPK/PD解析は比較的新しい学問分野。例えば患者に、どの程度の量の薬をいつ投与する



モデリングとシミュレーションを学ぶ松本教授のゼミの様子

「時間」も重要になる。これを「時間薬物治療」という。しかし教授によると、「メタボリックシンドロームの発症時には、代謝や薬物動態に影響を与えると思われる因子が大きく変動する。その結果、PKや薬力学の予測が難しくなる。この研究が実を結ぶと、効果的な薬物治療を行うための「夜更かし」や「夜更かし」を避けることが可能になり、患者個別に最適な投与計画の立案が実現する」と期待している。

松本教授は、メタボリックシンドロームの治療薬の開発に力を入れている。メタボリックシンドロームは、内臓脂肪の蓄積や、血糖値の上昇、脂質異常症などの特徴がある。この研究が実を結ぶと、効果的な薬物治療を行うための「夜更かし」や「夜更かし」を避けることが可能になり、患者個別に最適な投与計画の立案が実現する」と期待している。

患者に役立つ研究を第一に

時間薬物治療の推進などに貢献

松本教授は、メタボリックシンドロームの治療薬の開発に力を入れている。メタボリックシンドロームは、内臓脂肪の蓄積や、血糖値の上昇、脂質異常症などの特徴がある。この研究が実を結ぶと、効果的な薬物治療を行うための「夜更かし」や「夜更かし」を避けることが可能になり、患者個別に最適な投与計画の立案が実現する」と期待している。

松本教授は、メタボリックシンドロームの治療薬の開発に力を入れている。メタボリックシンドロームは、内臓脂肪の蓄積や、血糖値の上昇、脂質異常症などの特徴がある。この研究が実を結ぶと、効果的な薬物治療を行うための「夜更かし」や「夜更かし」を避けることが可能になり、患者個別に最適な投与計画の立案が実現する」と期待している。



医師向けの情報サイト

松本 宣明（まつもと）博士研究員、11年助教。国立病院で薬剤師として勤務した後、昭和61年昭和薬科大学薬学研究所に転じた。その後、昭和61年昭和薬科大学薬学研究所に転じた。その後、昭和61年昭和薬科大学薬学研究所に転じた。

プロフィール 邦大薬学研究所。同大で薬学博士。その後、昭和61年昭和薬科大学薬学研究所に転じた。

松本教授は、メタボリックシンドロームの治療薬の開発に力を入れている。メタボリックシンドロームは、内臓脂肪の蓄積や、血糖値の上昇、脂質異常症などの特徴がある。この研究が実を結ぶと、効果的な薬物治療を行うための「夜更かし」や「夜更かし」を避けることが可能になり、患者個別に最適な投与計画の立案が実現する」と期待している。

松本教授は、メタボリックシンドロームの治療薬の開発に力を入れている。メタボリックシンドロームは、内臓脂肪の蓄積や、血糖値の上昇、脂質異常症などの特徴がある。この研究が実を結ぶと、効果的な薬物治療を行うための「夜更かし」や「夜更かし」を避けることが可能になり、患者個別に最適な投与計画の立案が実現する」と期待している。